

目的 身体形質の近代化と衣生活のテーマに沿って、世代別に関連調査を実施しているが、身体形質の近代化に関する要因として選択結婚に着目し、家系調査を行い、一世代・二世代夫婦の選択結婚のパターン把握を試みている。死亡率や授精能力などの自然淘汰要因が昔ほど強くない現代社会において、選択結婚の様相把握はヒトの進化を考える上で重要である。今回は、未婚の若い男女がどのような配偶者選択を行おうとしているのかを調査し、選択結婚の要因の把握を試みた。今回調査はまた、未来の家族のあり方を探る上でも意義あることと言えよう。

方法 配偶者選択に関する調査を質問紙調査法により行った。質問項目設定に関する調査(昭和56年10月)、予備調査を経て、36の質問項目を設定し、20歳前後の男・女合計256名を対象に、本調査(昭和58年5月～10月)を実施した。調査項目を多元的に設定し、選択結婚の要因を探るために因子分析を行った。

結果 質問項目設定に関する調査によると、家制度^{いえ}廃止後出生した戦後の若者にとっては、結婚を家主義としてとらえず、個人本位として受け止めているといえよう。本調査資料の解析により、男子においては好み的一致・はっらっさ・人間的あたたかさ・外見の良さの順、女子においては現実的・外見の良さ・はっらっさ・好み的一致の順で、第1～第4因子が選ばれた。